



興味が持てる道徳の時間に

4月に入学・進級した生徒達も、無事に終業式を迎え、明日からの夏休みに心躍らせていることと思います。長い夏休みを使って、自分自身を見つめ直し、2学期の目標を持てる様に有意義に過ごしてほしいと思います。また、夏休みの時間を使って様々な体験をし、いろいろな事を感じ取って心豊かに育ってほしいと思います。

学校では1学期間を通して、学年毎に教師同士で、毎週の道徳の時間を交流しながら行いました。少しでも生徒達が考えやすく、興味が持てる内容にしたいと考えたからです。2学期以降も、生徒達の意見や感想をもとに、より深く考えることのできる道徳の時間を作っていきたいと考えています。それでは今回も、各学年の道徳の時間の生徒の感想文を紹介します。裏面に1年生、2年生の資料を掲載させていただきました。是非、読んでみてください。

1年生

「いつわりのバイオリン」

テーマ：弱さ・醜さの克服

小さな工房で納得のいく音を求めてひたむきにバイオリン作りに励むフランク。いつしか彼の作るバイオリンに魅せられ次々と弟子が集まる。フランクのレベルに届こうとする弟子ロビンも日々、バイオリン作りに精を出す。そんなある日、有名なバイオリニストからフランクのもとへバイオリンの製作依頼が……。2度とないチャンスを目の前にしたフランクは……

- 私はフランクが書いた手紙の内容はたぶんこう思うのだと思います。「バイオリニストにわたしたちのバイオリンはロビンのだったんだ。本当にごめん。こんなおれに今までついてきてくれてありがとう。」フランクもこれからは今まで以上にバイオリン作りをがんばるんじゃないかなと思いました。それにフランクは素直に「間に合いませんでした」と謝ったほうがよかったんじゃないかなと思います。
- フランクのロビンへの手紙は「ロビンのバイオリンをとってラベルを張り替えたことの重荷をロビンにうちあけよう」と思って書いたのかなと思う。そして、フランクはロビンに立派なバイオリン職人になってほしいということを手紙につづったと思う。私ももしフランクみたいなことをしてしまったら、言うのが怖くてなかなかいえないと思うので、フランクの気持ちもわかりますが、やっぱりだまっておくのは良くないかなと思います。
- うそをつくことが、すぐく自分自身をきずつけるということが改めて感じる事ができました。この話にでてきたフランクもすぐく心が痛かったと思います。でもロビンからの手紙が、自分を解放してくれたように、自分の気持ちに正直になれたと思います。だからロビンは大人だと思いました。



2 年生

「軽いやさしさ」

テーマ：あたたかい人間愛

一人暮らしの高齢の婦人に対する近隣の若者たちの優しさを通して、思いやりについて考えました。この資料の若者は、親切に感謝しようとする老夫婦に「暇つぶしですよ」ととぼける。親切が、相手の心の負担になってはならないという配慮である。筆者のいう「軽いやさしさ」とは、ちょっとした小さな親切への類をさすのではなく、思いやりを受けた相手が負担を感じないように配慮する「軽さ」である。真の優しさとは・・・

- 授業の中での恩返しの恩というのは、おばあちゃんと話している時の時間とか、おばあちゃんが開いている菓子屋を好きだと思わせてくれたことが恩なんじゃないかなと思いました。たぶん、青年はおばあちゃんが新しい色や、新しい世界をくれるから、話し込んだり、店をひいきにしているのだと思います。だからこそ思いやることができるのではないかなと思いました。
- 他の人から見ると「当たり前」かもしれないけど、自分にとってはけっこう悩んで出した思いやりなんじゃないかなと思いました。思いやりって口では簡単に出せるけど、実際行動に移そうとするとなかなかできないんじゃないかと私は感じました。よく思いやりをするってどんなことを言うのかなあと感じるときがあります。でもこの資料はそんなことを教えてくれました。私も思いやりを大切に行動できる人になりたいです。
- みんなの意見の中で学生がおばあちゃんにしたことを「暇つぶし」といってわざとそのことを軽く見せようとしたことが深いという意見が出ていました。僕はその意見を聞いてこんなに深い考えがあるんだなあと感心し、人の立場を変えることでこんなに考え方が変わるんだなあと感心しました。



3 年生

「風に立つライオン」

テーマ：強い意志

歌手さだまさしさんの歌の中に「風に立つライオン」がある。この歌を使って考えました。この歌は理想の生き方を求めて生きる一人の青年医師が、アフリカのケニアに渡り、医療活動を行うという話である。アフリカに渡って3年が経ったある日、かつての恋人から手紙が来た。結婚しますとのこと。その彼女に宛てた返信の手紙には迷いや悩みを乗り越えて自分の道を歩んでいく姿が描かれている。

- 日本を出てアフリカまで行かないと分からないことがある様に、私たちも何かを変えないと気づけない事って多いんじゃないかなと思った。私はこの日本で暮らしていると生きていることは当たり前と思ってしまっていたけど、外国へ行くと死と隣り合わせの人がたくさんいて苦しんでいる人もたくさんいることを考えていて思った。この医者の方は日本では感じる事ができないこういう事を自分の目で見たかったんじゃないかなと思った。逃げないで挑戦することがだいじだと思った。
- 今日の道徳で一番感じたことは、自分にしんどいことや辛いことがたくさんあっても、絶対にあきらめない気持ちを持って、医者やったら、難病に立ち向かって苦しいことに逃げない心を持ったら良いなと思いました。自分でも、辛いことやしんどいことがあっても立ち向かって絶対にどんな困難でも乗り越えていける心と力を持って行きたいと自分は一番思いました。

